

平成 28 年度「大阪市英語力調査」(「英検 IBA」)に おける大淀中学校の結果の概要と今後の取組について

大阪市では、生徒の英語力の充実と向上を図るため、大阪市教育振興基本計画*に基づき、英語イノベーション事業*の一環として、「大阪市英語力調査」(「英検 IBA」)を実施いたしました。この調査の目的は、生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、学校における英語の指導の改善を図ることです。

学習指導要領における中学校英語の目標は、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」と示されております。本調査で測定できるのは英語力の一部ですが、本校では、結果をふまえ、生徒の総合的な英語力向上を目指してまいります。

- 1 目的 (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
(2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の改善、工夫に役立てる。

2 対象 大阪市立全中学校 生徒 1～3年生

※本校では 3年生 96人 平成28年10月31日(火)実施

2年生 101人 平成28年11月7日(月)実施

1年生 103人 平成28年11月2日(水)実施

3 内容

学年	英検 IBA の種類	英検 (目安)	テスト内容		満点 スコア
			リーディング問題	リスニング問題	
3年	テストC	英検準2～5級レベル	35題	30題	1100点
2年	テストD	英検3～5級レベル	35題	30題	1000点
1年	テストE	英検4級・5級レベル	35題	25題	800点

*大阪市教育振興基本計画…本市の教育振興のための施策に関する基本的な計画

*英語イノベーション事業…本市の英語教育強化を図るための事業

平成28年度 「大阪市英語力調査」(「英検 IBA」)の結果の概要と今後の取組

大淀中学校

■ 調査内容

学年	英検 (目安)	テスト内容		満点 スコア
		リーディング問題	リスニング問題	
3年	英検準2級～5級レベル	35題	30題	1100点
2年	英検3級～5級レベル	35題	30題	1000点
1年	英検4級・5級レベル	35題	25題	800点

■ 調査結果

【「語い・熟語・文法」「読解」「リスニング」の値は分野別平均正答率(%)】

3年	学校平均スコア(点/1100点)	語い・熟語・文法	読解	リスニング	英検3級レベル以上の割合(%)
	754.8点	58.5%	61.2%	58.4%	55.2%
	市平均スコア(点/1100点)	語い・熟語・文法	読解	リスニング	英検3級レベル以上の割合(%)
	723.9点	54.0%	56.6%	51.1%	38.9%
2年	学校平均スコア(点/1000点)	語い・熟語・文法	読解	リスニング	英検4級レベル以上の割合(%)
	696.5点	71.8%	66.8%	70.7%	79.8%
	市平均スコア(点/1000点)	語い・熟語・文法	読解	リスニング	英検4級レベル以上の割合(%)
	650.6点	64.1%	58.4%	61.8%	61.4%
1年	学校平均スコア(点/800点)	語い・熟語・文法	読解	リスニング	英検5級レベル以上の割合(%)
	533.9点	69.8%	52.7%	67.7%	87.4%
	市平均スコア(点/800点)	語い・熟語・文法	読解	リスニング	英検5級レベル以上の割合(%)
	509.2点	63.7%	50.0%	61.6%	80.6%

■ 結果の概要と今後の取組について

学年	結果の概要と今後の取組
3年	「語い・熟語・文法」「読解」「リスニング」の3分野において、平均正答率が55%を上回っている。特に「リスニング」の正答率が高いのは、C-NETとの表現活動やリスニング問題に重点を置いた授業展開が理由の一つに挙げられる。「語い・熟語・文法」「読解」の正答率をさらに上げるために、語いの多い練習問題を数多く授業に取り入れる必要がある。
2年	3分野の正答率は市平均スコアの112%～114%と、すべて平均を上回っている。また、英検4級レベル以上の割合が、市平均の129%であった。しかしながら、得点が高かった生徒が多い反面、正答率の低い生徒も相当数存在しているので、英検5級レベルの生徒の全体的な引き上げを目指して、基本問題の復習に力を注いでいきたい。
1年	「読解」の正答率が他分野に比べて15%以上も低い。普段の授業では、教科書以外の読み物教材をなかなか扱えていない。生徒たちが読み物教材に抵抗感を抱かないよう配慮しつつ、ある程度まとまった量の英語を読ませる活動を取り入れていく必要がある。